

コシヒカリの田植えは5月5日以降であわてずに行いましょう！

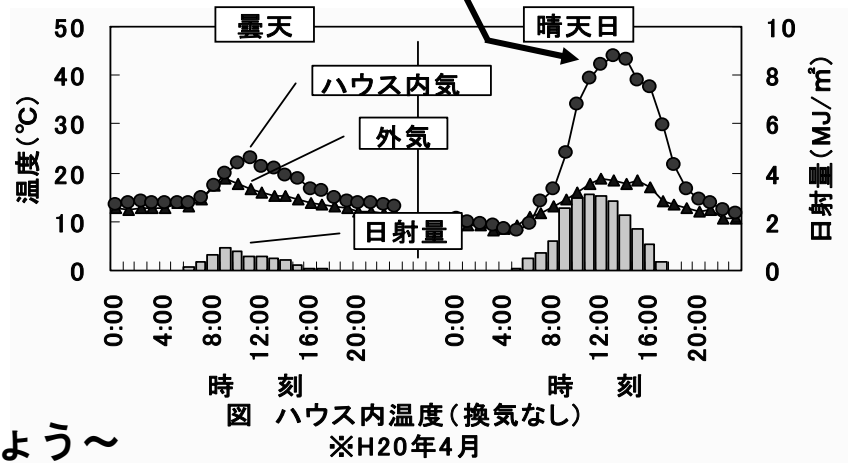
- 育苗ハウスの高温に注意して、換気に努めて苗の軟弱徒長を防ぎましょう。
- 田植時の基肥量は、土壌条件に応じた施肥基準を遵守しましょう。
- 代かきはなるべく田植時期に近づけて、除草剤は遅れずに散布しましょう。

1. 硬化期の育苗管理

～換気を徹底して、たくましい苗をつくりましょう～

- 日中のハウス内温度は20～25℃を目安にする。
(特に、晴天日は早めに換気を行う)
- かん水は朝1回を原則として、床土の乾きに応じた確に行う。(かん水過多の場合、生育を阻害するので注意)
- 田植え7～10日前からは、10℃以下の低温にならない限り昼夜ともハウスを開けて、苗を外気に慣らす。
- 強風の時はハウスの風下側を開ける等、苗に直接風を当てないよう注意する。

晴天日のハウス内の温度は40℃を超えやすい。



2. 本田準備

～田植えは代かきから5日以内に行いましょう～

- 丁寧な整地によって、田面の均平に努める。
- ヒエ等の雑草の発生を抑えるため、代かきは田植予定日の3～5日前に実施する。
- 代かきは少なめの水で行い、稲わら等の埋没に努める。濁り水は排水路へ流さない。

3. 田植えと水管理

～活着と初期分けつの確保に向け、植付けは的確に、水管理は適正に行いましょう～

- 栽植密度は70株/坪セットを基本として、1株の植付本数は3～4本、植付深さは3cm(苗の第一葉が見える程度)にする。
- 基肥量は、収量と品質を確保するため、品種や土壌条件、前作等に応じた施肥基準を遵守する。
- 全層施肥体系の早期追肥は、田植後7日後に施用する。

【施肥の目安】

品種	施肥体系	肥料名	基肥量 (10aあたり)	早期追肥量(10aあたり) (基肥206)
コシヒカリ	側条施肥	基肥206	25～30kg	—
	全層施肥		30～35kg	7kg
	一発肥料	LPssコシヒカリ2号	27～32kg	—
てんたかく	側条施肥	基肥206	35～40kg	—
	全層施肥		40～45kg	10kg
	一発肥料	LPs早生専用	35～40kg	—

- 活着までは5～6cm程度のやや深水で管理する。
- 活着後は3cm程度の浅水として、早朝入水・昼間止水で田水温を高める。

【水管理のイメージ】

[2～3日程度]



田植後1ヶ月までに

4. 病害虫防除



- 初期害虫と葉いもち・紋枯病の予防のため、苗箱施薬剤を使用する。
- 散布後は軽く散水し、薬剤を床土に落ち着かせる。
- 育苗後のハウスで野菜栽培をする場合は、苗箱施薬剤をハウスの外で散布する。

【苗箱施薬】

注)JAの苗には、苗箱施薬剤が散布されています。

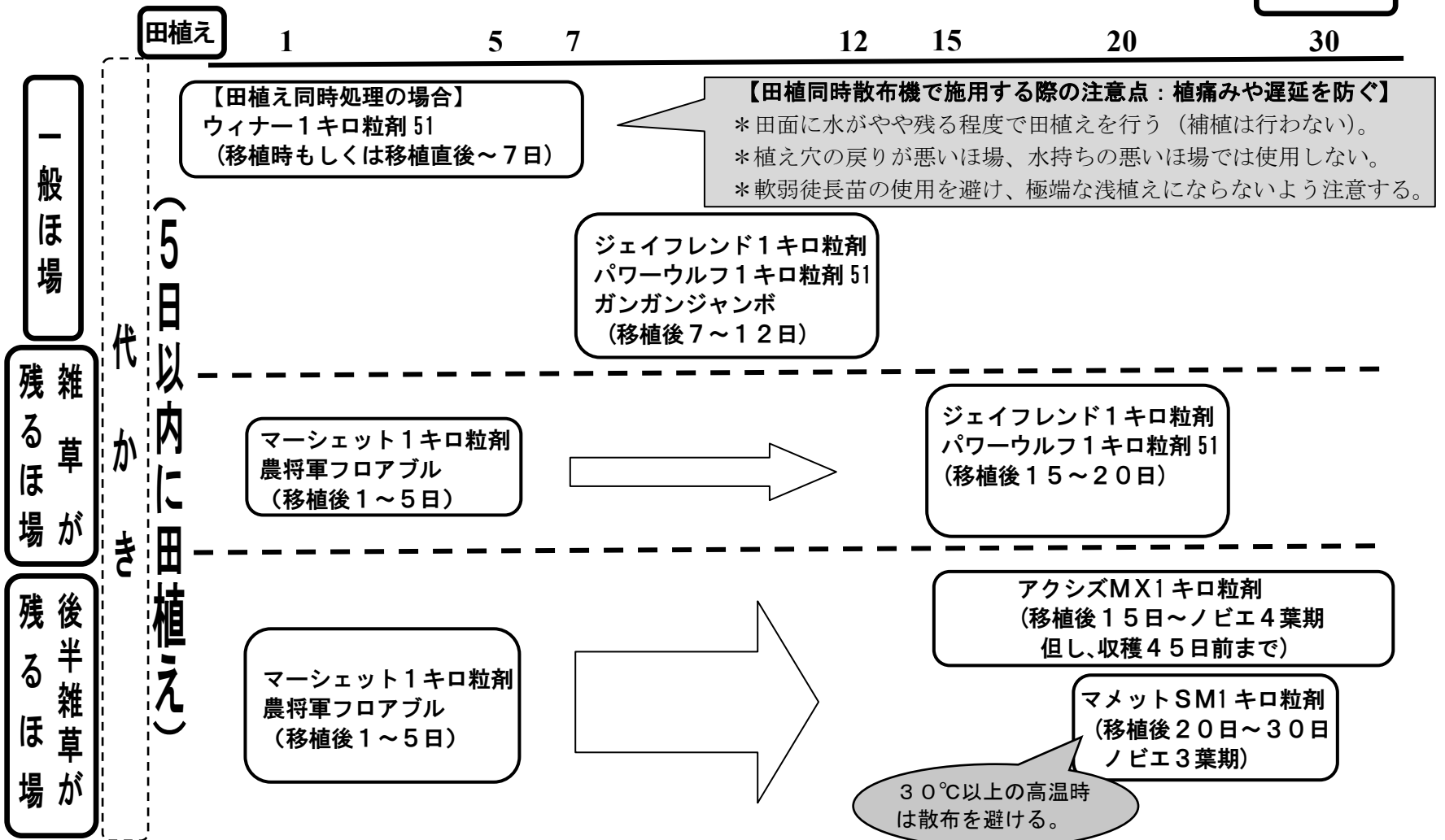
薬剤名	主な対象病害虫	使用量（1箱当たり）	使用時期
ルーチンブライト箱粒剤	いもち病、紋枯病、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、イネミズゾウムシ、イナゴ類など	50g	播種時(覆土前) ～ 移植当日

5. 除草剤の散布

～使用基準を遵守して、ムラなく均一に散布しましょう～

- 除草剤を散布する前に、畦畔や排水溝の状態を確認し、漏水を防ぎましょう。
- 河川への農薬成分の流出を防ぐため、散布後7日間は「止水管理」とし、落水やかけ流しをしない。
- 特に、散布後5日間は湛水状態を保ってください。
- 気温が高くなると雑草の生育が早まるので、処理可能日数内で早めに処理しましょう。

田植後日数



- ・上記薬剤の10a当たり散布量：ジャンボ剤・10パック（250g）、フロアブル剤・300cc、1キロ粒剤・1kg
- ・ジャンボ剤やフロアブル剤は風のない時に、5cm以上の深水にして散布しましょう。

6. 溝掘り

～溝掘りは早めに取りかかりましょう～

- 田植後25日頃から溝掘りを実施する。
- 溝掘りの前に軽く田干しを行い、泥を落ち着かせてから掘りましょう。
- 溝の間隔は、3～5mに1本の目安とし、水口と溝、水尻は確実に連結する。
- 溝掘り後から中干しを始める。



生産履歴の記帳！GAPの実践！

「安全・安心・高品質・美味しい山田米」 作業の度に忘れず記帳！！